

# 令和元年度 学校関係者評価報告書

学校名：あいち福祉医療専門学院

## 1 学校目標

- ・当事者意識、貫徹意識、学園意識をもって学園ならびに学校経営理念を再認識し、前年度実績を踏まえ、より一層の教育力と協働意識を高めて教育付加価値／学修成果を追求する。
- 1) 情報の共有・協働 2) 出席率98%超、退学率5%以内、進級率・卒業率94%超 3) 国家試験合格(資格取得)率90%以上、年度内就職率100%
- 4) 総定員充足率80%(352名)以上の安定確保が目標 5) 校友会運営の協働(部会活動の活性化) 6) PTOTカリキュラム改定・実習指導者研修会取組
- 7) 新指導要領移行企画 8) 出前授業・総合学習受け入れ 9) 学園が展開する海外との教育連携とともに実際の取り組み
- 10) 介護福祉学科外国人留学生受け入れ 11) 他団体の介護福祉士養成システムとの協働 12) 入学生176名(入学定員充足率88%)の目標
- 13) 体験入学参加者数580名以上、参加者歩留まり45%以上 14) SNSおよびトピックス活用へ三意識をもちホームページ広報の活発化
- 15) 経費節減、教育研究経費・管理経費の在籍者数に応じた10%削減 16) ペーパーレス意識定着 17) 養成施設指定規則に準拠する教育環境整備および管理
- 18) 各数値目標の階層的把握 19) カリキュラムマップ(AP-CP-DP)に即したロードマップおよび卒業後の研究と展開
- 20) 情報の共有・協働を見える化するコミュニケーション促進

### 学校目標に対する評価・意見

- ・県内の養成校が減少している中、入学者数が一定数保っているのは、貴校が良い評価がされている結果と思います(介護福祉学科)。
- ・退学率の減少と、作業療法士の合格率アップ等に向けて具体的改善策が必要だと思います。
- ・様々な就労先がある中で少子化や介護離職もあり、分散し伸び悩むことは多いと思う。しかし、入学率、就職率を維持していることは評価できる。
- ・校内整備、教育環境を充実することが現代の学生ニーズに合っていると思われる。学生の目に留まりやすく、入学先を選ぶポイントにもなるため、継続して改善していかたい。
- ・介護福祉学科の「実習施設と連携を高めるための研修会」の実施は、実習内容のためにも就職のためにも有効と思われます。
- ・国家試験合格率について本来100%を意識すべき点を強調してもよいのではないか。
- ・学んでいく中、適正じゃない学生もいる中、卒業生のブランド化をする事も大切な事だと考えるので、そこで無理に卒業させるのではなく、道を示すも学校の役割だと考えます。
- ・課題に対して取り組む仕事量は多いと感じています。しかし、毎年悩まされる課題については、従来までの考えられる対策では改善が難しいと思います。

## 2 学校自己評価報告書について

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方針が適切か
基準1 (教育理念・目標)	4.0	3.8	3.7
基準2 (学校運営)	3.9	3.8	3.8
基準3 (教育活動)	3.8	3.8	3.7
基準4 (学修成果)	3.8	3.2	3.7
基準5 (学生支援)	3.9	3.6	3.8
基準6 (教育環境)	3.9	3.4	3.6
基準7 (学生の受入れ募集)	3.9	3.7	3.8
基準8 (財務)	3.9	3.6	3.4
基準9 (法令等の遵守)	4.0	4.0	4.0
基準10 (社会貢献・地域貢献)	3.9	3.8	3.8
基準11 (国際交流)	4.0	3.7	3.6

## 3 今後の改善意見

- ①入学者が退学することなく卒業できるよう、学生の生活環境への支援を充実してほしいです。
- ②在学中から、職能団体の研修に参加しやすい環境があればいいと思います。先輩介護福祉士と交流することにより仕事に対してやりがいにつながると思います。
- ③海外研修は福祉事業をしている企業とコラボ等を考え、資金援助してもらおう等、如何でしょう。
- ④学生のニーズや能力が時代と共に変化の中で、社会人、福祉の専門職として必要な能力を見極めていく。
- ⑤退学率については、学生と教員とのコミュニケーションを今まで以上に密にしていただければと思います。
- ⑥国家試験 (PTOT) 合格率の向上に対し、過去問にとらわれるのではなく、基礎医学の充実と向上に対し取り組んだらどうか。
- ⑦退学率への影響は出ると思われるが、進級時、卒業時の基準を明確にする必要があるのではないか。
- ⑧長期的に考えてブランド化も必要かと思えます。国試100%は宣伝しやすいと思うし、親として必須だと思います。卒試を実施して、合格に届かない学生は留年で良いかと思えます。実習も職業訓練より、参加・体験となってきたり甘い状況なので、一番の「売り」を考えていく必要があり、ここを大切に。夏期より国試、卒試に取り組めるようにすると、学力も上がるのではと思います。
- ⑨困難なことではあると思うが、学生、教員、実習指導者の栄養状態を血液検査で把握し、正常な精神状態確認の上、カリキュラムをすすめた方が、教育効果も向上すると思います。ほとんどの人が糖質過多、必須アミノ酸不足(タンパク不足)、必須脂肪酸不足、ビタミン不足、ミネラル不足で、鬱、パニック障害に悩んでいる方が多いです。フェリチン値というタンパク質内の鉄分量を診るだけで、どういう状態が把握できるので、今後の日本の教育に必要だと思います。
- ⑩医学関係の教科書は高額ですが、教科書代金の内訳を前年度実績でよいので事前に父兄に渡されると良いと思います。

## 4 今後の具体的な改善方針

- ①担任、学科、教務協働して学生とのコミュニケーション時間の増加。日常生活から学生の動向を観察し、退学抑止に努める。
- ②企業連携として、OBOGの授業補助を開始している(介護福祉学科)。先輩介護福祉士との交流機会大。
- ③4学科揃った海外研修企画は、後期授業開始や国家試験の時期の違い等により困難。今後も検討課題とするが、他の学校行事の内容も魅力あるものとする。
- ④指導にスムーズに反映できるよう、学生の質の変化を敏感にとらえ、現場で必要な能力を普段から伝え続ける。
- ⑤国試合格率アップは、担任の「思い」や「経験」だけでは不足することが4学科全てが実感。二度と同じ間違いが無いようベクトルを合わせた指導を行う。
- ⑥進級卒業時の基準は開設時と比較して低くなっていることは否めない。ただし、在校生の気質や成績、退学率の減少を考えると、「チャンス」まで減少させることはできない。粘り強い指導こそ、最終的には退学率減少と国家試験合格率アップに繋がる。
- ⑦年々、早期の実習終了と国試対策の開始を進めている。学生の自覚は必要であるが、それを待っているだけでは結果に結びつかないことから、ある程度強制的なスケジュールで進行。競合他校以上の進級卒業率とそれに伴う、全員の国試受験をPRしている。
- ⑧学生だけでなく、職員の健康管理は本校の長年の課題でもある。1人の過重労働にならず、上手にワークバランスを保ち、学園実施のストレスチェックも使用しながら、管理監督者や学科責任者の面談から問題点を洗い出すようにしている。
- ⑨教科書代金は改定等があることにより毎年変動があるため、正確な金額を事前にお知らせすることができません。対策として前年度の金額であれば目安としてお知らせすることができますので、今後は請求の数か月前に前年度の教科書リストを各家庭に配布するよう検討いたします。